

がん相談支援センターを知っていますか？

もしも、ご自身やご家族が、がんになってしまったらどうしますか？

今や、国民の2人に1人は一生のうちに1回は、がんになると言われています。

がんと告げられるのは衝撃的なことで、心に大きなストレスをもたらします。病名を耳にした後の数日間は、眠れなかったり、食欲がなかったり、集中力が低下する人もいます。また、がんと告げられると「仕事が続けられるのか」「治療費はいくらかかるのか」「どんな治療をするのか」「親の介護はどうなるのか」「子どもに病気をどう伝えたらいいのか」など、様々な疑問や不安を抱く方もあると思います。

がん看護専門看護師とは、患者さんが抱える痛みなどの身体的苦痛や不安などの精神的苦痛を理解し、患者さんやご家族の生活や価値観を尊重した看護を専門的な知識や技術を活用して提供する役割を担っています。仕事、家事、育児、周囲の人との関り、医療費や介護保険など、がんと告知されたその日から患者さんの生活を一緒に考えるお手伝いをします。

私は現在看護部に所属し、外来、緩和ケアチーム、がん相談支援センターなどで横断的に活動しています。外来では、がんの告知や再発告知を受け最も辛い時期に、治療を選択しなければならぬ患者さんの揺れる気持ちに寄り添い、患者さんやご家族の意思を尊重した治療が決定できるように関わっています。入院中の患者さんやご家族には緩和ケアチームの活動を通して、痛みや・不安などを緩和できるようにサポートしています。がん治療や療養生活の中で悩んだときや困ったときは、ぜひご相談ください。専門以外のことでも、医師、薬剤師、検査、事務部門など多職種との調整を図り、専門家へ繋ぐ橋渡しをします。

当院は、がん診療連携拠点病院に指定され、桐生地域のがん医療の中心的な役割を担い、地域住民のみなさまに質の高いがん医療を提供できるよう努力しています。がん診療連携拠点病院には、がん相談支援センターが置かれ、がんの治療や療養生活全般の質問や相談に対応しています。当院1階地域連携室にもがん相談支援センターがあり、患者さんやご家族のほか、地域の方々はどうなっても無料でご利用いただけます。がん相談支援センターには、私の他に緩和ケア認定看護師や臨床心理士がおり、がんの治療や療養生活全般の質問や相談に対応しています。不安なことを一人で抱え込まず、いつでもご相談ください。



【がん看護専門看護師 荒川 浩】

